

国際会議参加記

The 8th Asian Pacific Phycological Forum 参加記 小園淳平

Asian Pacific Phycological Forum (APPF) は、Asian Pacific Phycological Association (APPA) の後援で3年ごとに開催されるアジアの太平洋地域における藻類学の国際会議です。APPFの第8回大会が2017年10月8日から13日の6日間、マレーシアのクアラルンプールにあるPullman Kuala Lumpur Bangsarにて開催されました。今大会には21ヶ国から約300名が参加し、日本からは29名が参加しました。

講演はKeynote & Plenary lectureが5題、口頭発表が145題、ポスター発表が88題でした。Keynote & Plenary lectureでは、日本、マレーシア、中国、オーストラリア、韓国の著名な藻類研究者が講演を行い、大会初日の最初の基調講演では、神戸大学内海域環境教育研究センター教授の川井浩史先生が「Early evolution and phylogeography of Laminariales」という演題で講演されました。また、午後の開会式ではAPPA会長のSung Min Boo名誉教授(Chungnam National University)の挨拶や来賓の祝辞の後、Phang Siew Moi教授(University of Malaya)によるマレーシアの藻類研究の歴史と展望についての講演がありました。口頭発表はMini SymposiumとContribute Sessionから構成されており、定められたテーマごとに分かれた会場でそれぞれ進められました。私が最も興味を持ったテーマは、自分の研究にも関連する「Algal response to a changing climate」だったのですが、最近関心が持たれている石灰藻



ポスター発表の様子

と海洋酸性化についての発表が多くあり、とても勉強になりました。ポスターは基調講演会場で大会中展示されており、3日目にPoster viewingの時間が設けられました。私は淡水産紅藻チスジノリの光合成活性と生育地の特性についてポスターにて発表しましたが、思いのほか多くの方に聞きに来ていただき、閉会式でOutstanding Poster Presentation Awardをいただく栄誉にあずかりました。初めての国際大会で賞をいただき大変光栄ですが、まだまだ自分の伝えたいことを英語ですべて伝えることができなかったのが、今後の課題として精進していきたいです。

エクスカージョンでは、希望者約50名でバスに乗り込みマラッカへと視察に行きました。マラッカは東西交通の要衝として知られる歴史ある街で、現在はユネスコの世界文化遺産に登録されています。現地では、マラッカ川河口で遊覧船に乗船して町並みを眺めた後、マレーシアに根付いた中華系移民のプラナカン(パバ・ニョニャ)文化の博物館や教会などを見学し、マラッカの歴史や文化を学ぶことができました。

今回の大会では、Coffee breakやStudent's Network Sessionなどで様々な国の同世代の若手研究者と交流できたことが、とてもよい刺激になりました。また、日本から参加された先生方からも有益な助言を多々いただき、大変勉強になりました。

次回のAPPFは、2020年の9月頃に札幌で行われる予定と伺っています。日本で開催されるのは2002年の第3回以来ですので、より多くの参加者で盛り上がることを期待しております。また、私も参加者としてよりよい発表ができるよう日々頑張りたいです。

(鹿児島大学大学院連合農学研究科)



開会式で挨拶されるAsian Pacific Phycological Association会長のSung Min Boo名誉教授